

はじめに

ここに、地域総合研究第15号発刊の運びとなった。本号は第1部研究報告、第2部申請書、第3部報告書、第4部講演録、そして第5部アニュアルレポート別冊 part2という5部構成になっている。“地域立大学”を自認する松本大学の地域貢献活動全般の報告という本誌の位置付けが、上記の5部構成に現れている。

第1部の研究報告は、本学教員の研究成果のうち、地域貢献並びに教育改善・実践に関するものである。本学には研究誌として「松本大学研究紀要」と「地域総合研究」の二誌があり、数年間にわたる議論を経て、昨年度査読付き研究誌としての両雑誌の統一的な扱いと分野に基づく対象区分が規定となった。地域総合研究は本学教員の研究のうち、地域に関する問題を扱う研究誌として位置付けられ、編集委員による形式査読が本年度初めて制度として行われた。研究誌としてスタイルの統一を目指したが、論文の研究対象分野や著者の出身分野がまちまちであるため、統一的な体裁にはいまだ道半ばというところである。本学らしい適切な論文スタイルの確立までには、研究活動同様の試行錯誤の時間が必要であり、まずは議論と実践の第一歩を踏み出した一年目と評価していただきたい。研究誌編集委員会としては、年度後半の松本大学研究紀要の編集作業と合わせて、松本大学らしい研究論文誌のスタイルの確立を目指して今後も研究誌規定や執筆要項の修正改善を進めていきたい。

第2部以降の内容は、従来の意味では研究紀要に掲載するような研究成果ではない。しかしながらこれらも、近年大学に要求されている社会貢献や大学の改善を目的として、本学教員が時間をかけて真摯に取り組んだ成果である。特に平成25年度には本学は文部科学省「「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択され、様々な活動がスタートした。狭い意味での研究論文には内容的に至らなくても、第2部から第5部に掲載されているような活動を本学教員が行っているということは、地域密着型の地方私立大学としては、その存在価値にかかわる重要な点である。この意味で、研究論文とは部を分けて、本誌でこのような活動を活字に記録し、大学として評価していくことは、今後の本学の発展のためにも重要だと考える。

平成26年9月

地域総合研究センター長
室 谷 心